

企画展 甲虫展 — ひとつはくコレクションのビートルズ —

期間：2025年7月19日（土）
～ 2026年1月12日（月・祝）
会場：本館 2階 企画展示室

甲虫とはどんな生き物？

甲虫（こうちゅう）と聞いて、みなさんはどんな昆虫を思い浮かべますか？真っ先にイメージするのは、やはりカブトムシでしょうか。カブトムシと人気を分けるクワガタムシも、愛らしいテントウムシも、美しく輝くタマムシもみな甲虫の仲間です。私たち日本人にとって古くから親しまれている昆虫です。分類上、甲虫とは、甲虫目*に属する昆虫のことです。実は、記録されている種数だけで地球上の全動物種の28%を占めるほど、とても大きなグループなのです（図1）。

現在、世界におよそ39万種が知られていますが、調査の進んでいない熱帯雨林などからは、膨大な数の未記載種（＝新種）が発見される可能性が高いため、研究が進めば、現在の数倍の数になるといわれています。生息場所も地球上のあらゆる環境に広がっており、甲虫のいない環境などないといっても過言ではありません。

*図鑑などでは「コウチュウ目」と表記されていることが多いです。

多様性のヒミツ

甲虫目の学名「Coleoptera」は“鞘状の翅”の意味で、硬い前翅（前ばね）という甲虫の最大の特徴をあらわしています。多くの甲虫では、前翅以外に頭部や胸部の背面も他の昆虫と比べて硬くなっていて、体のほとんどの部分が鎧に覆われたようになっています。硬い前翅の下には薄い後翅（後ろばね）が折りたたまれており、飛翔の際にはそれらを広げて羽ばたきます（図2）。甲虫は体全体が硬い外皮に覆われていることになり、そのおかげで体を傷つけずにさまざまな環境へ適応することができました。進化の過程で頑丈な前翅を獲得したことが、地球上での大繁栄につながったと考えられています。



図2 翅を展開したキイロゲンセイ（長島聖大氏提供）

いろいろな甲虫（図3）

甲虫目はナガヒラタムシ亜目、オサムシ亜目、ツブミズムシ亜目、カブトムシ亜目の4つの亜目に分けられます。カブトムシ亜目は32万種からなり、甲虫全体の約90%を占めます。オサムシ亜目が4万種以上、ツブミズムシ亜目が約100種、最も原始的なグループとされるナガヒラタムシ亜目は約40種が知られています。

たくみな生存戦略

膨大な種数をほこり、地球上のありとあらゆる環境で見られる甲虫ですが、種の数だけ生活する場所も、生活の仕方も違ってきます。食べ物の種類も、植物の葉や茎、根、花粉、種子、材、樹皮、枯れ葉、菌類、小動物、動物の死体や糞などときわめて多様です。また、

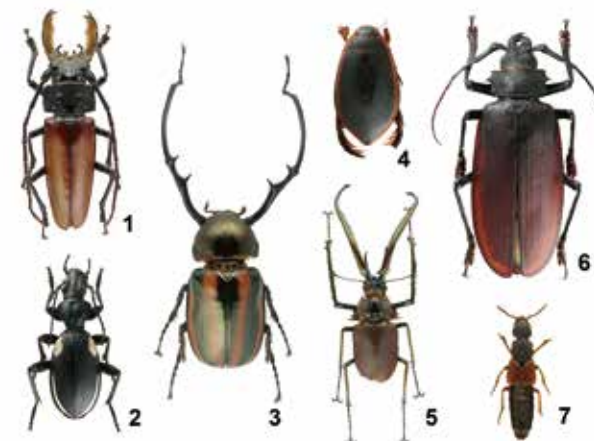


図3 いろいろな甲虫
1.アラゲオオキバカミキリ、2.カタモンオサモドキゴミムシ
3.セスジドウナガテナガコガネ、4.ゲンゴロウ
5.コガシラクワガタ、6.タイタンオオウスバカミキリ
7.アカバハネカクシ

交尾相手をさがす仕組み、効率よく子孫を残すための行動、仲間との戦いで進化した形態、敵から身を守るための方法など、甲虫は長い歴史の中でたくみな生態を身につけました。

兵庫県の甲虫

兵庫県には一体何種の甲虫が生息しているのでしょうか。古い情報ですが、1998年10月時点で3,311種が記録されており、その数は神奈川県に次いで2番目に多いことが言及されています（高橋，1999）。種数が多いだけでなく、世界で兵庫だけに生息する甲虫や全国的に希少な甲虫も知られています。また、兵庫にゆかりのある甲虫も意外とたくさんいて、それらの名前には兵庫の地名や所縁のある人物の名前が付いていたりします。例えば、マヤサンオサムシ *Carabus maiyasanus*（図4）は、その学名も和名も最初に発見された神戸市の摩耶山に因んでいます。

企画展「甲虫展—ひとつはくコレクションのビートルズ—」では、上記の内容を含むさまざまなテーマで、甲虫の多様な世界を、魅力を、余すところなくお伝えします。ひとつはくが30年以上かけて収集してきた膨大な甲虫コレクションをぜひご覧ください。

山田 量崇（系統分類研究グループ）

引用文献

高橋寿郎（1999）きべりはむし、27(1): 40–41.
パトリス・ブシャー編（2016）世界甲虫大図鑑、東京書籍。



図4 マヤサンオサムシ（長島聖大氏提供）

